

50周年 会社再建を全従業員一丸で実現

支援の車など11台で営業 釜石タクシー従業員の熱い思いで

(岩手地本)

2012年8月5日 釜石市のホテルサンルート釜石で支部結成50周年記念レセプションを開きました。

岩手地本釜石支部(小原正信執行委員長)は8月5日、釜石市大町のホテルサンルート釜石で支部結成50周年記念レセプションを開いた。同支部は釜石タクシー(小澤伸之助)の労働組合で組織。大町に本社があった同社は昨年の津波で被災したが、中妻町に仮営業所を開き7月に業務を再開、会社復興から1年を迎え、感謝の会も兼ねて開きました。



関係者約50人が出席。同支部前執行委員長であった後藤文雄実行委員長が震災後の経過について、釜石タクシーは津波で本社営業所と平田営業所が流失。従業員は無事だったが、14台あった車両のうち11台が流された。5月以降、労連本部を通じて8台の車両支援があり、国際興業大阪神戸支店(兵庫県)から中型タクシー3台、加古川タクシー(同)から2台、秦野交通(神奈川県)から同2台、東京福祉バス(東京都)からジャンボタクシー(車イスのまま乗降可能)1台、社会福祉法人自立更生会(盛岡市)からは車イス2台を寄贈してもらった。兵庫県からの5台は組合の三役らが自ら1100キロもの道のりを運転して盛岡まで届けていただきました。

つばめタクシー(盛岡市)は車両整備や部品調達の支援、北都交通(奥州市)は支援物資を積んだタクシーを無償で釜石まで走らせていただきました。

震災前、約20人いた従業員(組合員)は、自宅を流された人が遠方に避難しそのまま退職したり働くことを断念したりして8人まで減少。営業再開後、若い7人が加わり現在は15人で業務にあたっていると経過を説明し、「各社から車両などの支援をいただき、営業再開できたことを深く感謝」そして、釜石支部結成50周年と会社復興から1年!感謝する会のレセプションを多くの方々にご臨席を賜り開催できたことを心から喜んでいる。「組合員・家族に本当の笑顔を取り戻すため、会社の再建に一生懸命がんばっていきたい」とあいさつ。小澤社長は「一度は経営を断念したが、従業員の再建に対する思いと雇用を確保しなければとの思いから存続の決意をした。新生釜石タクシーを作るチャンスととらえ、経営改善を行っている」と述べた。

来賓の伊藤実全自交労連中央執行委員長は「組合が主導して会社再建に動いたことは特筆すべきこと。非常事態の中、労使が垣根を取り払い、手を携えていくことが求められる」と激励した。また、食料支援のためにタクシー車両を無償提供していただいた岩手県タクシー協会会長でもある小野幸宣北都交通社長、ジャンボ車両を寄贈していただいた東京福祉バス小関光雄常勤監査役、車イス2台を寄贈していただいた社会法人自立更生会細川光正理事長、タクシー車両を寄贈していただいた国際興業神戸労働組合成田次雄委員長から連帯と激励のご挨拶を頂戴いたしました。東北地連執行委員長でもある高橋学秋田地連書記長が、あの震災から労使一体なって会社再建に取り組まれたことに敬意が示され、必ず会社を再建しようと元気に乾杯が行われました。

交流会では、青森地連江良實書記長、加古川タクシー労働組合池田勇夫委員長、つばめタクシー佐藤久平整備管理者、釜石地区労センター高橋道明議長から激励を受けました。

最後に後藤実行委員長が会社再建を全従業員一丸となって必ず実現するとの決意を込め、参加者全員で三本締めで支部結成50周年記念レセプションを締めました。